

幼児性行評定尺度に就て (四)

淡路圓治郎

(三) 觀察の機會

兒童の性行は悉ゆる言語舉動に現れるもので、炯眼な教師が注意深く見詰めるならば、兒童の片言隻語、一舉手一投足からでもその個性的特色を認知し得べき筈であります。この意味に於て、兒童の幼稚園の内外で示す一切の動作はざれ一つみして觀察の對象ならぬものは無いわけであり、特に觀察の機會を限る謂れはない筈であります。偶然の言語や舉動の裡から性行を見抜くには、特に洞察眼に恵まれた教師が相當に經驗を積んだ上でないも、信賴が出来ないものであります。素人の勘まかせでは反つて危険千萬で、なまじ觀察がましいこまはしない方が安全であります。

また實際に於て、ある種の性行はある方面の動作に比較的顯著に現れ、またある種の性行は他の方面の動作に比較的頻繁に認められるなど、性行項目の如何によつて、些かその關係を異にして居ります。自然、各種の性行は夫々比較的顯著にまた頻繁に現れて捉へ易い方面の動作を通じて觀察する方が、判斷が正確でもありまた容易でもあることゝなります。

今、私共が選定しました性行項目二十種につき、夫々に於ける兒童の特色を觀察するのに比較的に適當な動作を選び、特に之を捉へるのに好都合な場合を例示して見ます。次のやうになります。尤も茲に掲げますものは、八名の先生の御意見に私見を加へて取捨したもので、必ずしも適切なものばかりは云へません。寧ろ觀察機會の一例を考へて、他に一層適切なものがあれば、研究の上御挿替ねがひたいのであります。更にまた私共はこれ等の機會以外には、その種の性行

は絶対に觀察が出来ないとするものではありませんから、あらゆる場合を利用し、常に廣く兒童の言語舉動に注意して、觀察を補正せられんことを望みます。

- 1、「氣むづかしい——氣輕である」。自由遊びの時、共同製作又は團體的行動の時、お辨當の時、保姆との問答の時等。
- 2、「興奮し易い——平靜である」。お話をきいてゐる時、自由遊びの時、競争的な遊戯の時、お話し合ひの時、友達との喧嘩の時、嬉しがる時等。
- 3、「何事にも興味が薄い——物事を知りたがる」。繪本をよむ時、お話をきく時、自由製作の時、お話し合ひの時、觀察の時、特に室外に出来事がある場合等。
- 4、「氣が散り易い——よく注意する」。お話をきく時、製作の時、テストの時、長く坐つてゐる時等。
- 5、「倦きつほい——根氣がない」。一般の時間特に作業の時、自由遊びの時、友達との關係等。
- 6、「性急である——落つきがある」。お辨當の時、作業殊にぬりえ、切紙などの時、競争的な遊戯の時、お話し合ひの時、テストの時、放課間際等。
- 7、「元氣がない——元氣である」。自由遊戯の時、團體遊戯の時、野外保育の時等。
- 8、「獨創が少い——工夫をこらす」。砂遊び、積木遊び、粘土細工、自由畫、その他自由製作の時等。
- 9、「意思を發表しない——卒直である」。保姆との問答の時、友達同士の會話の時、自發的質問の時等。
- 10、「言ひなり次第になる——自分の考で行動する」。子供同士の遊び(まごごこ、お店遊びなど)の時、共同製作の時、集團遊戯の時、等。
- 11、「ひごの厄介になりたがる——自分のこごは自分でする」。登園又は退園に際し身のまわりや持物などの始末をする時、お辨當の時、野外保育の時、作業の時等。

12、「剛情をはる——すなほである」。自由遊び殊にまゝごこ、お人形遊びなき友達と一緒に遊んでゐる時、團體遊戯の時、友達との口論の時、保姆から訓戒せられた時等。

13、「ひきりほつちを好む——協力する」。自由遊びの時、共同製作の時、野外保育の時等。

14、「我儘に振舞ふ——秩序を守る」。共同製作の時、團體遊戯の時、園の催事の時、等。

15、「ふざけたがる——悪ふざけをしない」。團體遊戯の時、自由遊びの時、遊びの後先き、園の催事の時等。

16、「ねたみ深い——そねまない」。まゝごこ遊びその他遊び道具を分け持つ時、他の子供が綺麗な衣服や新しい持物をもつて来た時、自由遊びの時、製作の時等。

17、「よくすねる——我慢する」。家人の附添つてゐる時、自由遊び殊にまゝごこなきで友達と利害の衝突した時等。

18、「ひきをいぢめる——睦み合ふ」。自由遊び特に共同的な遊びの時。女兒若くは年下の友達と遊ぶ時等。

19、「冷淡である——ひきの面倒を見る」。自由遊び特に共同的な遊びの時。女兒若くは年下の友達と遊ぶ時、新入園の友達と遊ぶ時等。

20、「ものを粗末にする——ものを大切にする」。製作材料を取扱ふ時、玩具繪本なきを取扱ふ時、自分の持物を取扱ふ時等。

(ホ) 評定の仕方

既定の二十項目の性行に關して、兒童の状態を評定するには、便宜、下の下、下、中、上、上の上の五段階に分つて判断し、夫々に-2、-1、0、1、2、の評点を與へることに定めます。

(2) 下の下、その點に關して例外的に好ましからざる状態にある場合、

(1) 下、相當に好ましからざる状態にある場合、

(0) 中、 普通の状態にある場合、

(1) 上、 相當に好ましき状態にある場合、

(2) 上の上、 例外的に好ましき状態にある場合、

例へば「氣むづかしい——氣輕である」について云へば、ある兒童が假りに特に氣むづかしくもなくまた特に氣輕でもなく、この點に關して他の一般の兒童と大差がないと判断せられた場合には、之を普通と見做して中を査定し、○の評點を與へます。またある兒童がその組の中でも可成り氣むづかしかしやの方であつて、平素取扱に困じてゐられる場合には、之を相當に好ましからぬ状態にあるものと考へて、下を査定し、-1の評點を附します。またある兒童がその組の中でも指折りの氣輕な子供で、保育上好ましい状態にあると考へられたならば、之を上を査定して1の評點をつけます。更にまたある兒童が非常に氣むづかしかしやで組中にその比を見ず、保姆自身もこんな氣むづかしかしやには初めて出會つたと思はれるやうな場合には、之を例外的な状態と見て下の下を査定し、-2の評點を與へます。また逆にある兒童が非常に氣輕で、これ迄経験した澤山の子供の中ではむしろ珍しい状態にあると考へられたならば、之を良い意味での例外と見做して上の上を査定し、2の評點を附します。

その他の性行項目に於ても全く同様で、いつも前述の原理に従つて、兒童を五段階の孰れかに割當て、評定するのであります。

この方法によりますと、孰れの項目に於ても、全園若くは一組の兒童の大部分は中、少數の兒童が上又は下、極少數の兒童が上の上又は下の下を評定せられるのでありまして、上の上又は下の下を評定せられるものが無い場合も出て來るのであります。

統計上から見ますと、何千人といふ兒童の場合では、恐らく中は全員の八〇パーセント、上、又は下は夫々約一〇パー

セント、上の上又は下の下は夫々約一パーセント位の割合になるのではないかと思はれますが、五十人や百人の児童の場合では、必ずしもこの数字のやうな割合にはならないかも知れません。

寧ろ一般の幼稚園では、あまり人数の分布のこまには囚はれないで、保姆の先生方が、虚心平氣に、自分の平素の保育上の經驗に鑑みて、大まかに五段階に區分して査定せられるのが安全でせう。

(へ) 記入の仕方

評定の結果は適宜一定の書式に従つて記録にこまめ、平常の保育に活用せられなければなりません。児童の性状をたゞ漫然と觀察したゞけで、整理しないで置く、忘れられ易くて、保育上に活用せられるこまが少いものであります。

また保育に當つては、箇々の児童を相互に比較したり、同じ児童でも種々の特徴を相互に比較して、保育の分針を定め適切な處置を講ずる必要があるのですから、この目的から云つても、各児童の各種の特徴が相互に一目瞭然となるやうに、適當に記録にこまめて整理することを怠つてはなりません。

殊に他の保姆の先生に児童を引つぐ場合、また児童が小學校へ進む際などには、児童に關する觀察資料を提示して參考に供するこまが必要であり、また幾人かの保姆若くは教生の方々が児童を取扱はれる場合には、相互の所見を披瀝し合ふ必要もありますから、一定の書式に従つて、觀察結果を整理して置くこまは極めて大切であります。

然し乍ら、性行の評定は記録するこまが目的ではなく、保育上の活用を旨とすべきでありますから、記録の様式並びに記入の手續はなるべく煩雜を避けて、役立つ限り、簡潔に工夫せられなければなりません。

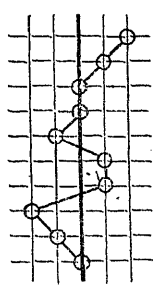
私はこの趣旨に基きまして、前掲(七月號)頁所載の記入票を工夫しました。

擔任の保姆の先生は二十の性行項目につき一児童を仔細に觀察し、その状態を五段階法に従つて適當に査定し、上の上の場合は記入票の該當欄の2の所に圓をつけ、上の場合には同様に1の所に、また下の場合

には1の所に、更にまた下の下の場合には2の所に圓をつけ、圓をつけ終つた後に、これ等の圓を順に直線でつないで、左右に凹凸のある波線を描きます。この線を假りに「人物輪廓線」呼ぶことに致します。

人物輪廓線の例
-2-1 0 1 2

- 1 氣むづかしい
- 2 興奮し易い
- 3 何事にも興味が薄い
- 4 氣が散り易い
- 5 倦きつばい
- 6 性急である
- 7 元氣がない
- 8 獨創が少い
- 9 意思を發表しない
- 10 言ひなり次第になる



- 氣輕である
- 平靜静である
- 物事を知らたがる
- よく注意する
- 根つきがある
- 元氣である
- 工夫をこらす
- 卒直である
- 自分の考で行動する

この「人物輪廓線」に於て、波線が右方に突出してゐる部分はその兒童がその性行項目に關して比較的に好ましき状態にあることを示し、左方に突出してゐる部分は、その兒童がその性行項目に關して可成り憂ふべき状態にあることを意味します。即ち前者はその兒童の長所で、個性教育上助長すべき點であり、後者はその兒童の短所で、矯正を必要とする點に當るわけであり、從つて、吾々はこの種の「人物輪廓線」を一覽すれば、その兒童に對する保育上の力點を見定めることが出來、之に基いて今後の保育上の方針を定め、適切なる處置を講ずることが出來るのであります。尤もこの「人物輪廓線」は出鱈目な觀察や無責任な査定に據つて作成せられたのは、弊害はあつても効果はありませんが、正確なる觀察と慎重なる査定に基く限り、相當に有益なものに信じます。

評定の時期を三期に分つ場合には、その都度一葉つゝの記入票を用ひて記載してもよし、また一葉を以て三回の記入に當てゝも差支へはありません。しかし、兒童の發育に伴ふ性狀の變化を窺ひ、また殊に保育の効果を動的に眺めるためには、一葉にすべてを記載する方が便利であります。この場合には入園直後の査定を黒色で、一年の終のものを青色で、二年の終即ち小學校へ進む間際のもの赤色でいふ工

合に、インキの色を變へて同一記入票に記入するならば、各期の「人物輪廓線」を比較することによつて、兒童の性狀が保育中に如何に變化したかを知り、助長若くは矯正の効果が如何に現はれたかを確めることが出來て、その後の對策若くは處置を講ずるのに好都合であります。

(ト) 評定者の資格及び心得

- 1、評定者は保育の経験が深く、相當に鑑識眼を備へた人であるべきこと。
- 2、評定者は評定すべき兒童に平素よく接觸し、相當に廣くその兒童の行狀を知つてゐること。
- 3、偶然特殊の事例に囚はれて即斷しないで、根氣よく觀察を反復し、その兒童の多くの場合の行動を綜合した上で判斷すること。
- 4、一人の評定者だけで觀察評定しないで、なるべく多數の人々の判斷を利用し、評定者の主觀による歪みを防ぐこと。
- 5、兒童を單獨に眺めないで、常に同輩と比較した上で判斷すること。
- 6、兒童を大人の標準で判斷しないで、ごきごきでもその年齢相當の子供として判斷すること。
- 7、性行項目中には、一般に觀察し易いものと觀察し難いものとがあり、また兒童によつては觀察の難易の關係が異なるものがあるから、項目の全部に互つて一時に査定しやうとはしないで、適宜觀察の出來るものから觀察し、確定的な判斷が下し得られたら記入して、徒らに査定をせせつたり、また強いて判決を下したりなごしないこと。
- 8、評定は單に兒童の性行の状態を知つて保育の方法を定めるために行ふもので、兒童の人格を價値づけするために行はれるものではありません。従つて評定者自身が之によつて兒童の道德的價値をきめたつもりになることは禁物であります。本人はごきごきより、父兄なごにも誤解を與へぬやうに注意したいものです。

六、評定結果の運用

(1) 運用の必要

幼稚園に於ける兒童の性行の評定は、單に幼兒心理の研究の目的に施行せらるべきものではなくて、之によつて保育の方針を處置を定める、いはゞ純教育的目的のための方便であります。評定の結果は必ず保育上に活用せらるべきものであり、これが活用法に就ては、保育の衝に當つてゐる人々の十分なる研究が必要であります。

從來種々の調査を試みても、その結果を記入票なごに記入しますご、それで仕事ですんで了つたつもりになつて、あごは戸棚に仕舞ひ込んで、折角の努力を費したものを死藏するに過ぎないなごいふ實狀でありますが、それならば最初から調査なごは斷念して、面倒な手數ご可成りの努力ごをかけるこごは止めて置いた方が利口な譯であります。

これも畢竟、從來の調査では調査結果の運用に就ての研究が忽かにせられてゐた爲であります、折角の結果が出ても之をさう運用してよいものやら不明であり、結局死藏するより外に致し方がなかつたからであります。

私共の最初の出發點は既に述べました通りごこまでも實用本位ごいふこごにありましたので、觀察、評定、記入ごの他の手續はすべてなるべく簡略にして、専ら保育上の運用の點に念慮を集中いたしました。

理論的研究の立場から考へますご、吾々の觀察の評定記入其他の方法も、もつご詳細で適確な方法を執りたかつたのであります、實用ごいふ見地から故意に簡易な方法を選び、寧ろ保育上の對策に於て之を活かす工夫をしたのであります。

尤も次に掲げます保育上の指導要領は決して完全ではありませんが、少ごこも實際家の御參考にはならうかご思ひます。保育上の對策は幼稚園の性質、兒童の環境の事情、郷土の特色なごによつても相當に異なるべきであります、また問題の兒童の生立ち、家庭狀況、身體狀態、その他の個人的事情に應じても加減せらるべきものでありますから、寧ろそれご

の幼稚園に於て、箇々の児童の特殊事情に鑑みて、夫々の場合に慎重に考究の上、具體的に決定せらるべきであります。たゞかゝる場合の参考として、些か愚見を開陳して見たつもりであります。

(四) 保育の要領

既述の二十對の性行項目の夫々に於て、児童を好ましからざる状態(下又は下の下)より好ましき状態(上又は上の上)の状態へ移すためには、如何なる具體的保育手段に訴へるのが適切でありませうか。この點に關して、一般に試みらるべき陶冶若くは指導の要領を、八人の保姆の先生の御意見を取捨して、例示します。次の如きものがあります。

1、「氣むづかしい——氣輕である」。原因を考へて之を除くことも、なるべく刺戟の機會を少くする。例へば、體質が弱く健康が悪いなごのために氣むづかしい児童は先づ體質の改善、健康の増進に骨を折る。生れつき神經質なために氣むづかしい児童は家庭の協力して自然に接せしめて太い神經を養はせ、つまらぬこゝに心を勞せさせないやうにする。仕つけが不十分で我儘のために氣むづかしい児童は温情を以て接し、花奔の世話や人形遊びなどで情操を育て上げて、氣むづかしい芽を矯めてやる等。

一般に朗らかな友達より多く交はらせて、自然に感化する。

2、「興奮し易い平靜である」。なるべく安易な環境に置き、感情の激發する機會を少くする。反省の習慣をつけて、一歩退いて考へるやうに導く。聲の調子に氣をつけて話してやる。題材に注意して刺戟を避ける。質問に對してもなるべく刺戟しないやうな言葉で緩りこ答へてやる。

3、「何事にも興味が薄い——物事を知らたがる」、原因に應じて適當に誘導し、興味を引出す。特に身體に故障のある児童、知能素質の低劣な児童、内氣な児童なごには夫々他ごはちがつた指導法をさる。一般には保姆の方から働きかけ、児童が答へられさうなやさしい質問を頻繁にかけて答へさせ、褒めてやつて興味をもたせる。児童の質問を獎勵し、そ

の話は喜んで聞いてやつて發表欲を起させる。興味のある所を探つて之を他方面へも誘導する。なるべく興味を惹きさうな繪畫、玩具、動物等を見せて知識欲を刺戟する。

4、「氣が散り易い——よく注意する」。なるべく解り易いこゝを面白く話してきかせる。興味をもつ事柄を選んで愉快に作業させる。放心の都度注意を與へ人の話をヂツミ聞く習慣をつける。餘り長く一つの事柄に携はらせたり、一つの場所に留めて置かぬやうに注意する。保姆の目の届く所に置いて、時々注意を惹く。身邊に氣の散り易いものを置かぬやうにする。低い聲で短い言葉を云つてきかせて反唱させる。

5、「倦きつほい——根氣がない」。根氣の薄い兒童には先づその體力、能力を考慮し漸次忍耐の習慣をつける。時々目新しい仕事を課して興味をもち続けさせる。根氣のよい子供と一緒に平易な仕事をさせる。退屈しさうになるに保母が一緒にやつて笑はせたり喜ばせたりして、氣分を轉換させる。保母自身が仕事に興味をもつて愉快に携り範を示してやる。特に根氣の薄い兒童には當分一つこゝを餘り長くさせないやうにする。

6、「性急である——落つきがある」。靜に問答なるべくユックリに發表させる。遊びを始める前によく氣分を落つかせる。丹念に仕事をさせてせき立てない様に氣をつける。塗繪の様な單調な仕事を綿密にやらせて氣長の習慣をつける。速度を向ふ様な仕事を避けさせる。比較的根氣を要する仕事を課す。根氣の強い兒童を褒めて他の兒童に暗示を與へる。

7、「元氣がない——元氣である」。身體虚弱のものは先づ健康を増進させ、家庭に面白からぬ事情あるものは父兄協力して之を取除いてやるやうにする。競争心に訴へて動作に生氣あらしめる。駈けつくら、鬼ごっこ等を過度に互らぬ程度で獎勵する。元氣な亂暴でない友達を選んで一緒に遊ばせる。元氣な英雄のお話をきかせて模倣心を起させる。なるべく團體遊戲なぎに参加させ活潑な動作に興味をもたせるやうに導く。

8、「獨創が少い——工夫をこらす」。多少でも獨創が現れたら賞賛して勵ましてやる。暗示を與へ若くは隆乍ら助力して

仕事を完成させ、完成の快感を味はせる。工夫心の強い児童と一緒に遊ばせ感化を受けさせる。積木遊び切紙細工粘土細工等に於て工夫の習慣を養はせる。

9、「意思を發表しない——卒直である」。先づ保母自身が児童と親しみ合ひ、隔てを置かないで話すやうに導く。やさしい課題を興へ意思發表の機會を多くしてやる。保母の方から気軽に話し掛け氣持をほぐしてやる。お話しごつこをさせ面白く遊ばせて堅くならぬやうに導く。氣の合つた友達をつけ自由に會話をさせて發表の習慣をつける。児童の氣持を察し發表を手傳つてやつて漸次慣れさせる。

10、「言ひなり次第になる——自分の考で行動する」。自分のこゝは一應自分で考へてきめさせる。得意とするこゝをさせて自信をつけてやる。性格の強すぎる子供と一緒に遊ばせるこゝを見合せる。指導的地位にたゞせて適當の援助の下に果斷決行の習慣を養はせる。

11、「ひこの厄介になりたがる——自分のこゝは自分でする」。家庭の人々と協力し、なるべく大人が手傳はないで、自分のこゝは自分で始末をつけさせる。幼稚園に於ても、身のまわりのこゝはなるべく自分でさせるやうにする。お話によつて獨立心を涵養する。時間がかゝつてもじれつたがつて手傳はないで、やり遂げるまでさせて見る。やさしいこゝから始めて漸次むづかしいこゝをも自分で始末をつけるやうに導く。

12、「剛情をはる——すなほである」。その場で叱責しないで、感情の靜まるを待つてやさしくさす。譬話になぞらへて靜に云ひきかせる。環境を整理し剛情を張らねばならぬやうな動機を輕減する。友達との共同生活に参加させ自然に自制の習慣をつけさせる。

13、「ひごりほつちを好む——協力する」。最初は比較的にうまの合つた少數の友達と協同させ、漸次友達の範圍を擴大して行く。保母がなるべく接觸の機會を多くして人見知りの氣持を解きほぐしてやる。遊戯作業その他同輩と一致協同す

べき機會を多からしめる。保姆が引立てゝ集團活動の面白味を味はせてやる。

14、「我儘に振舞ふ——秩序を守る」。母親が協力し専ら家庭に於て我儘を放任しないやうにする。行動の都度親切に訓戒する。教訓的な童話をきかせて暗示を與へる。集團活動に於て兒童同士が戒め合ひ、自然に秩序を尊重するに到るやう指導する。甚だしい我儘者の場合には、その兒童の遠慮しさうな友達を選んで一緒に遊ばせ、我意を自ら矯めさせるやうに工夫する。

15、「ふざけたがる——惡ふざけをしない」。ふざけたがる理由を考究しその機會を少からしめる。家庭に於て兒童にかつたり煽てたり喝采したりしないやうに注意する。惡ふざけをしない兒童を褒めて暗示を與へる。子供らしく上品に遊ぶ習慣をつける。ふざけるここの下品さを教へる。物靜かな落ついた友達をつけてやる。保姆が始終注意して氣をゆるめないやうにする。

16、「ねたみ深い——そねまない」。保姆がすべての兒童を一樣に親切に取扱ひ、偏頗な處置をしないやうに注意する。特になたみ深い兒童に對しては直接に訓戒なごをしないで、寧ろあつさりご取扱ひ、ねたみを起す機會を少からしめてやる。他の方面で満足の快感を味はせ、こぢれた氣分を轉換させて、和かな氣持を保たせるやうに工夫する。

17、「よくすねる——我慢する」。氣分を轉換させてやる。ひびくすねた場合にはその儘ソットして置いて、落ついた後に穩かに訓して反省させる。その兒童の氣持になつて溫くやさしく云ひきかせる。我慢の出來た場合には褒めてやる。家庭を協力して、すねる原因を輕減してやる。

18、「ひこをいぢめる——睦み合ふ」。友達と一緒に遊ばせて適當の監督の下に睦み親ませる。弱いもの虐めをする機會を與へないやうに氣をつける。意地惡の正しからぬ所をお話を通してわかり易く穩かに云ひきかせる。年下のものや弱きものを扶ける習慣をつける。本人の氣持を親切に聞いてやつて惡感情を弛緩させてやる。

19、「冷淡である——ひきの面倒を見る」。年下の児童の面倒を見させる。保姆の仕事を手傳はせる。友達同志助け合ひをさせる。草花、人形、動物なきをいたわらせ、同情心を涵養する。同情心に富んだ児童と遊ばせてその感化を受けさせる。深切な行爲を褒めてやる。

20、「ものを粗末にする——ものを大切にする」。保姆自身がものを大切にしていして範を示す。家庭と聯絡してものを大切にすることを習慣を養はせる。持物を調べて時々注意を與へる。ものを大切にすべきことに就て興味深い話を聞かせる。製作の場合に材料の與へ方を適度にし、粗末にさせないやうに注意する。製作の後片付けを手傳はせる。

(ハ) 處置及び效果

評定せられたる児童の處置はその性行上の特色並びにその程度に應じ、また家庭及び環境その他の諸事情を考慮して、適宜決定せられなければなりません。一旦具體的處置が決定せられました以上は、一應記入票下方の處置欄に記載して、其後の陶冶若くは指導参考に資せなくてはなりません。この處置の記入は評定後間もなくなさるべきであります。その處置其ものゝ當否は一定の保育期間を経た後に児童の性狀の變化伸展に徴して、仔細に檢證せられなければなりません。

即ち採つた處置が期待通りの好結果を生んだか否か、不結果に終つたミすればその原因は何處にあるか、今後の處置は如何に改むべきであるか等について、精密に調査し、一方に於て之れに基いて今後の對策を樹てると共に、他方に於て保育の方法そのものを吟味して適當に改善を試みなければなりません。この二重の意味に於て效果の反省は大切でありまして、決して無責任な保育の仕放しに流れることは許されません。

效果の吟味は大體次回の性行評定の機會に於て爲されるのが便利であります。必要に應じてはそれは前に保育上の處置を施しつゝある最中に行つても差支へはありません。この效果の吟味の結果も亦記入票の該當欄に記載して今後の參考に資せらるべきことは勿論であります。